



2021年度 東海大学 1日目

【 講 評 】

大問構成は 8 題で、例年通り大問 1 が長文読解、大問 2 が文法・語法、大問 3 が語彙、大問 4 が会話文読解、大問 5 が文整序、大問 6 が資料読解、大問 7 が英文和訳、大問 8 が和文英訳であった。大問構成は、大問 $\boxed{4}$ で 2 問減少したが、例年の出題傾向と大きく変わっていない。英語の運用能力を様々な角度から試されているが、どの大問も平易な問題が多い。特に大問 2 の文法・語法は基本的な問題ばかり並んでおり、失点は避けたい。大問 $\boxed{4}$ の会話問題(2 つめ)と大問 $\boxed{8}$ の英作文の難易度が高いため、差がつく部分である。英作文に関しては、構文や慣用表現の対策を行ってれば得点できる。難易度は昨年と変わらず。

【 解 答 ・ 解 説 】

1

問 1. エ

本文では“traffic flow”の“an objective”つまり目的が問われている。第 1 文目で“traffic flow”の定義を紹介した後、第 2 文目に“One of its aim is to achieve the efficient movement of traffic, ~”と続く。この意味は「その(traffic flow)目的は効率的な交通移動を実現し～」となるのでエが正解。

問 2. ア

第一段落最終文で“they may eventually become a thing of the past”とあり、「それらは最終的には過去のものになるかもしれない」と記載がある。つまり、将来的にはなくなってしまうとあるアが正解。

問 3. ウ

第二段落第 1 文目に“the first traffic signal was constructed ~ to control horse-and-carriage(馬車)”とあるため、選択肢ウの the movement of motorized vehicle (電動車) の記述が不適。

問 4. エ

第二段落第 2 文目で“The creator, British railway manager John Peake Knight, ~”とある。manager と選択肢エ中の executive はどちらも「経営者」の意味があるため選択肢エが適切。

問 5. ア

まず、設問が“the invention of the first electric traffic signal was a response to ~”となっていることに注目し、初めて電動信号が開発されたきっかけを示す文章を探す。“The first electric signal was invented by ~”の直前にあたる第 2 文目に注目する。第 2 文目に「20 世紀初頭の 10 年間ほどに起きた産業革命によって、アメリカの道路の交通量が増え、こ

のことによって交通を整備するより効率的な手段が必要となった。」とある。「効率的な手段が必要になった」は選択肢アの「交通整備の技術がますます不十分なものになった」の言い換えであるためアが正しい。選択肢エについては、第三段落最終文にあるように、「初めての電動信号」ではなく”subsequent traffic signal technology”つまり後続の信号技術についての説明である。

問 6. イ

第三段落は全体を通して、初めての電動信号の導入前後の流れを説明している。そのため選択肢イが適当。選択肢エの”manual traffic control”は「手動の交通整備」を意味するため不適。

問 7. イ

第四段落 3 文目”The words were mounted on poles placed at the four corners of the intersection ~”とあり、「その文字は交差点の 4 つの角にある柱に配置されている」とあるため、イが正解。選択肢アは文字が印刷ではなく切り抜き(cut-outs)であることや、それが歩道でなく交差点の四隅(at the four corners of the intersection)に配置されているため不適。選択肢ウは、above red and green lights とあり、above が不適。選択肢エは、警察官が持っていたのは制御装置であって文字の部分ではないため、held の部分が誤っており不適。

問 8. エ

下線部(A)の”trichromatic approach”を直訳すると「三色の試み」である。これは前文にある通り、交通量の増加に応じて、車両の速度を落とすために赤・緑のライトに黄色を加えた試みのことを指す。よって”三色の交通信号システム”と訳せる選択肢エが正解。

問 9. イ

設問は「第五段落を最も良く要約している選択肢」を問うている。手掛かりになるのは第五段落第 1 文目「ポッツのデザイン以降、信号機はいくつもの技術的な発展を遂げてきた」である。第五段落ではこれ以降その技術的な発展の具体例が続くため、この段落を最も良く要約しているのは「信号システムは新しい技術を組み込んでいった」とある選択肢イである。

問 10. ウ

gas lit lamps は初めての信号に搭載されたもので、第二段落で言及されている。yellow lights は第四段落後半で言及されており、それ以降は第五段落で順に言及されている。

問 11. イ

本文は全体を通して信号機の発展の歴史を説明しているため「止まれと進め：信号の進化」とある選択肢エが正解。選択肢アも信号について述べているものの、「信号の暗い過去」と失敗例のみを挙げており本文の趣旨とずれている。選択肢ウとエは輸送技術・輸送工学に言及しており、信号をメインとしている本文の趣旨とずれているので不適。

問 12. 1 : T, 2 : F, 3 : F, 4 : T

1 : 第一段落第 3 文目に”there is a 150 year history behind traffic signals ~”とあるため 1 番の「信号技術の歴史は 1 世紀以上前に遡る」という記述は正しい。

2 : 第三段落の”the first electric signal”についての説明の中で”operated by a police officer”とあるため誤り。

3: 第四段落冒頭で述べられているように、4 つずつの赤と緑の電灯のシステムのデザインに携わったのは James Hoge であるため誤り。William Potts が開発に携わったのは黄色い電灯である。また、問題文にある”instrumental”には「助けになる」という意味がある。

4: 第五段落第2文目”In the 1950’s, ~”において、信号が自動的に変わる仕組み(pressurized plate)が導入されたことが言及されているため正しい。

2

1. ウ

選択肢すべてが choose という動詞の変化形が並んでいる。動詞としてこれらの選択肢を使うのであれば、if 節内に S が必要であるが、書かれていない。ここで、if 節内で主語と be 動詞が省略されていることに気づく必要がある（接続詞付き分詞構文）。つまり、もともとは if (new recruits are) () carefully という文章であったことに気づきたい。choose の目的語が欠けているので、受動の形にするために Vp.p. のウが正解。「もし新入社員が慎重に選ばれていたら」という意味になり文意も通る。

2. エ

空所に動詞の変化形を入れる点から、この問題では let が使役動詞（第5文型）で使われていることに気づく。この文の O は it にあたる。この it は形式目的語として that 以下を指す。be known to ~で「～に知られる」の意味なので Let it be known to ~ 「～にそれを知られた状態にする」= 「～にそれを知らせる」となり選択肢エが当てはまる。

3. イ

go so far as to ~ で「～しさえする、ついに～する」の意味。

4. ウ

without の目的語である()と名詞 commitment は等位接続詞 and で並列構造になっているため、()には同じく名詞が当てはまる。選択肢のうち名詞はイの enthusiast(熱狂者)とウの enthusiasm(熱意)であり、文意からウが当てはまる。

5. エ

主節の文”my mother would have been elected ~”の would（助動詞の過去形）の存在から、仮定法の問題であることを疑う。with ~で「～があったら」という仮定法の意味をなす用法があるため選択肢エが正解。owing to ~は「～のせいで、～のおかげで」の意味。

6. イ

選択肢の並びから、疑問詞か関係詞の問題だと考える。本問は、cases を先行詞とする関係詞の問題である。cases () の後に完全文が続いているため関係副詞 where が当てはまる。

7. ア

() by many to be lazy, dirty, and stupid が全体で副詞句となっている。選択肢エは文中の V となる形であり、文を結ぶ接続詞がないので不適。残りの選択肢より、分詞構文の問題であると判断できる。()の後ろに believe の目的語が欠けているため、受動の分詞構文であるアが正解。「豚は怠けていて、汚くて、馬鹿だと信じられている」という文意。

8. ウ

動詞 deny は基本的に後ろに動名詞のみを取る。また、when 説の中で被告が否定したことは、それよりも以前のことであるため、過去完了形を取ることも判断できる。

9. ア

文末に last summer とあることからノートルダムを訪れた・訪れようとしたのは過去のことだとわかる。また、ノートルダムで火事があったという記述から「行きたかったが実際には行けなかった」という文脈だと判断できる。”would have Vp.p. ~”で「～すればよかった (が実際にはしなかった)」を示すため選択肢アが適切。

10. エ

as if to do ~で「まるで～するかのように」という用法。

3

1. ア

bribe~で「～に賄賂を贈る」の意味。bribe the police で「警察に賄賂を贈る」となる。

2. イ

endorse で「～を支持する」の意味。

3. エ

get away with ~で「(よくないこと)を罰せられないでやり通す」の意味。

4. エ

anguish は「苦痛、苦悩」の意味。「新しく税率が上がることによって地方の経営者に()が生じた」という文脈からマイナスの意味を持つ語句を当てはめると推測する。

5. ア

adamant は「断固とした」の意味。「ロジャーはマーサの誕生日プレゼントに 50 ドルを払いたくなかった」に対して逆接の内容が当てはまる。つまりフランクは 50 ドルを払おうとしたということだ。これに当てはまる選択肢は unyielding(断固として)である。

6. イ

pester は「邪魔をする」の意味。「子どもたちは最終的に父親たちがキャンディを買うためのお金を渡すことに納得するまで、父親たちに()した。」という文章。文脈から父親たちの邪魔をしたと考えるのが最も自然。

7. ア

elephant in the room は「皆が存在に気付いているのを見て見ぬふりをしているもの」を示す。scandal とあることから何か悪いもの・かつ触れにくいものを示すことが推測できる。

8. ウ

nauseous は「むかつき、吐き気のある」の意味。アの congested は「充血した」。エの feverish は「熱っぽい」。

9. イ

oblique は「遠回しの」の意味。問題文は「その俳優の自伝には多くのディレクターとの意見の相違についての()な言及が含まれていた」と訳せる。意見の相違という触れにくい話題を形容することから「遠回しな」を意味する indirect を選べる。

10. ウ

add insult to injury は「泣き面に蜂」の意味。不運や不幸が重なることのとえであり、「追い打ちをかける」と言い換えることができる。問題文は「レースの終盤にかけてチームはすでに疲れ切っており、そして()、水膨れができていた。」と訳せる。悪いことが続くという文脈から make things worse 「さらに悪いことに」が適切だとわかる。

4

1. イ

Yuko のスピーチの趣旨を問う問題。8 行目の Mr. Williams の発言で "Your topic was the advantage of studying English abroad" とあり、Yuko : "That's right." と続くことから選択肢イが適切。

2. ア

Ken が一位をとることができた理由の一つを問う問題。12 行目に "Ken provided examples from several studies to support his message, which contributed to him getting first place" とあることから、選択肢ア が正解。選択肢イ・ウは Yuko にとって足りなかった点であって Ken の一位の要因とは述べられていない。

3. ウ

Mr. Williams は毎週木曜日の 1,2,3 限目に授業を持っている(この時 Yuko は時間がある)。また Yuko は月・火・金曜日の 1~4 限に授業を受けており、水曜日と週末はアルバイトをしている。これを照らし合わせると、二人とも予定が空いているのは木曜日の 4 限目のみである。

4. イ

Mr. Williams が考える Yuko が改善すべき点を問う問題。14 行目に Mr. Williams : there were some areas where you needed improvement ~ you needed work on your gestures とあるため選択肢イが正解。他の選択肢ア・ウ・エについては 30 行目で Mr. Williams が Yuko について褒めている点であり不適。

5. ア

“It’s highway robbery”の主語は直前の\$6 for a small coffee つまり価格を指している。また、その後そのコーヒーについて「味は美味しいが、競合がないため好きなだけ価格を釣り上げている」と述べている。つまり、納得できる以上の高価格であることを指している。これらのことから選択肢アが正しい。

6. エ

15 行目に Carol : I’ve got a company car ~とあるため選択肢エが正解。選択肢アについては 21 行目に“I’ve done a ton of workshops at these things (=viral marketing)in my time.”とあるため不適。選択肢イについては“biannual bonus”つまり「年 2 回のボーナス」と述べているので不適。選択肢ウについては、13 行目に“I was a marketing assistant ~ for twenty years now”とあることから、20 年ほど前に雇われたことがわかるため不適。

7. エ

23 行目に Carol : I bumped into an old client, so we went out for a quick lunch ~とあることから「クライアントと予定にないランチに行った」とある選択肢エが正解。選択肢アについては 19 行目に Brad : Yesterday I led a workshop~とあるため、Brad saw とある選択肢アは誤り。選択肢イについては 23 行目に Carol : it was all pretty familiar to me, so I left early とあるように Carol は意図してパネルディスカッションを離脱しているため誤り。

8. ウ

8 行目の Carol の発言より、Carol は Dominick Barnes の考え方を素晴らしいと考えているため、イが正解。

5

問 1. イ

1 の文を見てみると”the magnetized needle”という言葉が出てくる。これは 4 の文の「針を弱くて一時的な磁石にする」という内容に適合するため、4→1 の順であることがわかる。2 の文で”allowed to float freely like this”という部分がある。like this がそれ以前のことを指しており、これは具体的には 1 の文にある針の操作のことである。よって 1→2 の流れである。3 の文は単純なコンパスを作るための材料を列挙しており、needle などの名詞の冠詞が a であることから 4 つのうち初めに來ることがわかる。

問 2. ア

1 の文では The little prince の概要が述べられている。2 の文は In fact,から始まっているため、何らかの具体例を示していることとなる。また、全体を通して書籍名は一度しか挙がらないため、its original publication の it が指しているのは 1 の文で挙がっていた The little prince だとわかる。つまり、1→2 の流れが確定する。3 の文では Its fantastic story とあり、この it も The little prince を指している。また、これは The little prince が人気である理由を述べており、2

の文はその人気を示す事例であったとわかる。よって 1→3→2 の流れが確定。4 の文に **this number** という言葉があるが、これは 2 の文にある **The little prince** が翻訳された言語の数を指している。よって 1→3→2→4 で確定。

問 3. ウ

1 の文を読むと、**Toltecs** 帝国の滅亡について書かれていることがわかるが、それ以上の手がかりがない。次に 2 の文は **They were** ~で始まっている。この **They** が指しているものが何か気にしつつ 3 の文を読む。3 の文は **The ancient Toltecs** の概要を説明しており、2 の文で **they** が指しているのは **Toltecs** だと推測する。4 の文では **They were also**~と **Toltecs** について追加の説明をしていることから、3→2→4 の流れだと考えられる。民族の概要を説明したのちその性質等を詳述し、滅亡した理由を述べる流れが最も自然であることから 3→2→4→1 の順であると確定する。

問 4. ア

1 の文では中央ヨーロッパで 43000 年前のクマの足の骨が見つかったことが述べられている。特に疑わしい指示語や冠詞は見当たらない。2 の文では **This led some scientists to believe** ~とある。**This** の内容が何かを考えつつ次の文を読む。3 の文では **The bone** の形等について説明しており、冠詞が **the** であることからこれは 1 の文の **a 43,000-year-old bone** を指していることがわかる。また、骨にフルートの穴に似た空洞があったことが述べられており、これは科学者たちに楽器を想起させる内容だと考えられるため **This** の内容に合致する。つまり 1→3→2 の流れだと考えられる。4 の文では **however** でそれまでの内容を否定している。「その骨の穴は動物がかじったものであった」という内容であるため、ここまでの話を否定しており、1→3→2→4 の順だとわかる。

6

(1) ア

「とても満足」と「満足」と答えた顧客を合計した割合が、改修前と後で何%増えたか問われている。円グラフから、改修前は $18\%+20\%=38\%$ だったのに対し、改修後は $35\%+14\%=49\%$ となっているため 11%増加したことがわかる。

(2) ウ

改修後のアンケートで、「とても不満」と「不満」と答えた顧客は回答者全体の何割か問われている。 $15\%+35\%=50\%$ 、つまり $1/2$ であるため選択肢ウ **one-half** が正解。

(3) ア

どれくらいの顧客が **Overall design** または **Lightning** のどちらかに最も不満を抱いていたかを問われている。これは **overall design** と **lightning** のどちらか一方に回答している顧客の人数を問われていることに注意すると、それぞれ表から 51 人と 48 人であることから選択肢アが正解。

(4) エ

不満だと答えた顧客が最も少ない項目と、次に少ない項目が何か問われている。順に並べると表から **TV and bathroom/shower** となる。

7

- (1) 【解答例】 その近くには、その後 2、3 世紀にわたって活動を続けていたと推定される農村の遺跡が存在して、その結果考古学者たちは文明化に関する基礎理論を再考することになった。

<Nearby> are the remains (of a farming village) (estimated to have been active for a few centuries afterward)

V S

が上記の構造の通り、Nearby が文頭に來ている倒置の文となっていることに気を付ける。後半の, which ~は関係詞の非制限用法で、前の節全体を説明するように訳すと良い。

- (2) 【解答例】 それにも関わらず、長く唱えられてきた文明化の理論とは対照的に、寺院の建築に携わった労働者たちは建築現場に行きやすくするために自らの家を建てていた可能性があるとは今では考えられている。

Yet は接続詞で「~にも関わらず」と訳せる。この文章の主な構造は”it is thought possible that SV”つまり「S が V である可能性があると考えられている」という文である。that 節内の主語は laborers、動詞は put up ~(~を建築する)である。また、so as to ~で「~をするために」の意味。

8

- (1) 【解答例】 He holds the records of both being the oldest participant in the Olympics and being the oldest gold medalist but even he cannot claim to be the Olympic games' oldest medalist.

- (2) 【解答例】 However, It was not until fifty years later that a historian discovered that because score had been calculated incorrectly, this American athlete was entitled to win the bronze medal.